各期同期会の活動状況

INFORMATION

■中41回

四一回生会は昭和28年6月、大森海岸料亭「まつあさ」を会場として集える者27名、放歌高吟したのをクラス会の嚆矢とする。同48年から平成12年まで、新宿西口「菊正」を会場に毎年開催。同13年以降は会場を新橋「三日月亭」に移して毎年11月の第3土曜日に開催して現在に至る。現会員数は27名。出席者数は概ね15名から25名の間であったが、最近は15名程度である。

特筆すべきことは、平成に入ってから会員の逝去の折に、会名で生花を贈ろうとの議が起こり、同4年から13年まで、生存会員から1000円を徴収することを決議し、プールの上、「在京飯田中学四一回生会」名で葬儀に供花している（参列者から賞賛の声がきかれる）。

四一回生会としては、飯田での合同クラス会、数回に及ぶ静岡大会など、活発な活動をしている。また、飯田在住クラスメイトの編集による年会誌『菁莪』が15号を数えるなど、殆どが80歳の高齢をものともしない素晴らしい団結力が見られることを無上の誇りとしている。（三村博康記）

■中45回

私たち飯中45回生は、昭和16年に入学。その年の暮れに太平洋戦争開戦、昭和20年3月、5年制中学を4年生の終りに卒業させられた。学校全体が豊川海軍工廠の分工場となっていたので、勉強の場はなかった。

卒後10年以上経過した頃から、同級生の間の交流連絡も取れ始め、同級会の集りを持とうという機運が高まって、5年毎に飯田で、その間には在京会を開く取り決めができた。

卒後50年の後、在京会は、飯田で行わない時に毎年集うようになり、今年も4月15日に品川プリンスホテル（3年連続）に集った。（岡島康人記）

■中48回・高2回

母校飯中・飯高を卒業して満54年を迎える。

昭和19年に入学（200名）して、戦中・戦後の6年間、ともに高松台で学び、卒業は昭和25年（227名。疎開・引き揚げ・男女共学等による増）、すでにこの画期的な同窓会誌を見ることなく物故された会員は40名近くに及ぶ。

我々高2回の大卒時は終戦から10年目で、大変な就職難という不運な巡り合わせに遭遇した上、各職場はもとより、戦後の担い手としての働き蜂であり続けた。

こんな訳で、今日の同年会としての活動は遅く、昭和49年から。十数年前からは、たまたま転勤が考えられない職場にいた今川雅晴、岡村隆臣、

在京二期会（昭和49年12月）

小島敞、清水孝雄、湯沢和人の5名が東京の常任幹事の大役を拝命し、以来毎年、当番幹事を選任してやっている。

我々の同期会は「飯田」と「東京」でそれぞれ年1回開催し、全員に案内をして交流を深めている。

東京では平成14年から、桜咲く4月の第1土曜日午後1時から、アルカディア市ケ谷で開催している。また、卒業50年に当る平成11年には別所温泉に足を運び、無言館を訪れた。

来年は国会議事堂を視察した後、懇談に入り、日本国の行く末を心ゆくまで語り合うこととしている。（小島敞記）

■高3回

高校3回卒の同期会は、昭和26年卒と23年併設中学卒とその在籍者の首都圏在住者によるもので、「東京二六会」と称し、卒業の翌年から有志集まっての飲み会が自然発生的に発展し、以来、今年53回を重ね、出席者も毎回50余名、2月か5月の開催である。近頃夜間外出が不安であるとの声もあり、来年は5月昼間に催す予定。

また、36年くらい前に飯田地区在住者と合同の全国大会を催したのを機に、オリンピック年毎に東京と飯田が交代に主催当番をして、東京、飯田近辺、中間の諏訪地区等で開催し、今年は石和で9回目を開催した。北海道、名古屋等からの出席もあり、毎回60名以上の参加で盛会である。

常任幹事は木下岳男氏、中島功雄氏と、江添繁和の三人。

（江添繁和記）

■高4回

在京二七会（昭和27年卒業）在籍者152名は、かなりユニークな会の運営をしている。まず、会の責任者や事務局の役員の呼称がユニークだ。世話をする人、お金を預かる人、それをチェックする人というように、最初から仲間意識を貫いてきている。

毎年1月に例会を開いて今年で41回になるが、一度も欠かしたことがない。驚くことに、全員の出席簿があって、41年間もの記録がビッシリ残されている。なかには皆勤者が数名、精勤者にいたっては20数名もいる。

例会は出席者が60名に達した時点で開会の宣言となる。定刻が大きく狂ったこともなければ、60名が欠けることもなかった。6000円の会費も20年間変わっていない。堅苦しい挨拶は一切なく、膝突き合わせ、酒酌み交わし、ヤーヤーワイワイで時間が過ぎてゆく。ただ、最後は決まって、校歌と応援歌の合唱で締め括りとなる。

特筆すべきは、23年前、会員の弔慰金基金を立ち上げ、仲間の死亡時には「飯田高校同窓会」名義の生花と香典が届けられること。1人2万円の拠出金は300万円もの基金を生み出し、発足時は基金の運用利回りがよく、安定運用が約束されていた。

しかし、バブルの崩壊と長引くゼロ金利、適用者の増加などが基金を圧迫し、基準額の切り下げが行われた。このことを仲間の楯郁夫さん（某生保・評論家）が生保の専門雑誌に事例研究として取り上げ、解説を掲載している。まったくもって、面白い仲間たちだ。

（福沢里次記）

■高7回

「首都圏高七会」（西村清一会長）は30年前に発足し、現

在はメンバー100名強、毎年2月の第3金曜日に総会を開催している。今年の総会は、飯田及び中京地区からのゲストも含め55名が出席、高七会の"情報交換紙"「高松台」(第1号1月30日付、B4判、8ページ建)の発行もあり、盛り上がった。

人材も多士済々だが、連携の強さも抜群で、「ゴルフ同好会」(年2、3回開催、約30名)、「囲碁同好会」(年6、7回開催、20名強=うち6段4名)、それに7回生全体で「高七展示会」を毎年1回開催し、

高七展東京会場にて

これには絵画、書、篆刻、写真、工芸品などの力作がプロも含めて大勢から出品され、昨秋で20回目の開催となった(うち2回は東京で)。

もちろん「飲み会」などはことあるごとに有志が集まって催し、情報交換している。

来年は、地元の「在郷高七会」と連携して「卒業50周年記念」の総会など、各種行事を実施するよう、準備を進めている。

(金田明夫記)

■高8回

「八松会」は総員346名で、関東地区在住は約160名。同年会結成40年の歴史がある。

関東地区では、毎年6月第2金曜日に、日本工業クラブにて例会を開催(近年はNHK青山荘)。

高松高校時代には修学旅行がなかったため、60歳を過ぎてから"半世紀遅れ"の修学旅行を実施し、2001年韓国の旅、03年タイの旅、04年中国(西安・桂林)の旅をした。今後は毎年継続実施の予定。

06年には卒業50周年を迎えるため、記念イベントを企画中。飯田地区、中京地区、関東地区で各々活動中。総会、ゴルフ、囲碁、旅行等多彩、とまり木は「神田麦とろ苑」。

(中田功記)

■高12回

昭和35年卒だから三五会。4万3千を越えるアクセスの非公式掲示板SANGO-kai OPENをきっかけに「加齢なる歯ーも無(ね)ー」の「ぼっぼっぼくらは老年合唱団」が誕生し、「懐かしい歌いい歌をうたわまい会」を年4回開催し、兵庫や静岡からも同好の士が集う。その練習成果は故郷での卒業45周年記念大会でお披露目されることになった。

韓国の旅(2001年秋)

定例の忘年会などには平均30名規模の出席。有志の山歩き会、お花見会、茸狩り、北海道・韓国・ラオス・屋久島などへの旅行会も毎年企画し、それぞれ10数人は参加している。

(福島茂喜記)

(掲示板http://8132.teacup.com/mokifuku/bbs)

■高15回

「いちご」とは飯田高校卒業15回生の愛称です。昭和62

年に飯田在住の方々のご尽力で「いちご会」が結成され、卒業25周年記念の会が開催されました。それを機に、京浜地区でも会を作ろうということになって「東地区いちご会」ができました。

東地区としたのは、飯田に対して東側の意であり、参加者対象を広くしたものです。会の継続性を図る上では、誰でも常時意識してもらうために日時・場所を特定し、例年2月の第1土曜日の3時から、新宿サンパーク（長野県に縁のある店）で、としました。すでに回を重ねて、連続17回を数えています。

多いときは60名を越えました。毎回30名以上の参加者があり、遠くは名古屋、静岡からも参加していただいております。また、いちご会本家の飯田からも必ず参加者があり、会を盛り上げてくれております。

そうしたこの会も本年は記念すべき還暦の会ともなりました。昨今は新しい顔も多くなり、「歳をとれば子供にかえる」の諺でもありませんが、ますます、飯田高校時代の青春の日々に想いを馳せ、語り、ゲームに興じ、あっという間に終わりの8時頃になるといった会になっております。最後は校歌、応援歌などの合唱で……。

（佐々木康夫記）

■高16回

高校卒業後25周年の「ホームカミングデー」以降、5年ごとに大会を行ってきたが、来年は還暦の年として、京都の古刹、智積院で厄払いと物故者法要を兼ねた大会を計画している。すでに今年5月には有志による下見を兼ねた現地調査も行い、日程、宿舎も確定。毎月16日に行われている地元飯田での会合では、回ごとに気分を高めているとか。詳細は「一六会ホームページ」参照。

（興津利夫記）

■高18回

「いちはち会」は俗に言われる「イチかバチか」で運を天にまかせるタイプもいるにはいる。一筋縄でいかない曲者揃いか。苦節何十年で花開けばいいが、未だに苦労多シの団塊の世代でもある。

昨年は在京同窓会を企画する側で多くの人が集った。皆さん、ごくろうさまでした。

今年の夏は同期生の故上松君の追悼記念会に有志が参列した。教会に賛美歌が響きわたり、早すぎる彼の旅立ちに合掌。

（山田治和記）

■高22回

飯田高校22回生の関東支部は、1996年に「関東郷友会22㎡」を発足させました。そして同期生相互の"心のオアシス"となるような交流の場を提供しようと、年1回の総会開催を中心に、忘年会や新年会、幹事会等を随時開いています。

昨秋には、お台場観光を企画し、大江戸温泉で総会を開催しました。現在の会員数は、連絡のない方を除いて80余名です。

また、情報交換の場として、会員制のホームページを立ち上げました。連絡事項・仲間の動向・会員のe―メールアドレス・関連のホームページ紹介・行事ごとの写真集等盛りだくさんの内容です。

このホームページを開設してから、同期生の連絡も取りやすくなりました。いずれは、同期生全体の情報交換の場へと育てていきたいと考えています。

（三ツ橋史緒子記）